



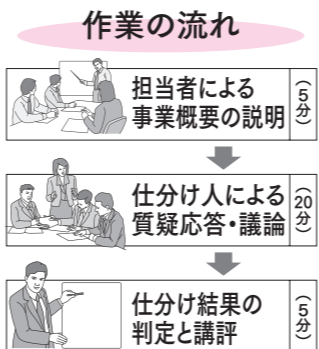
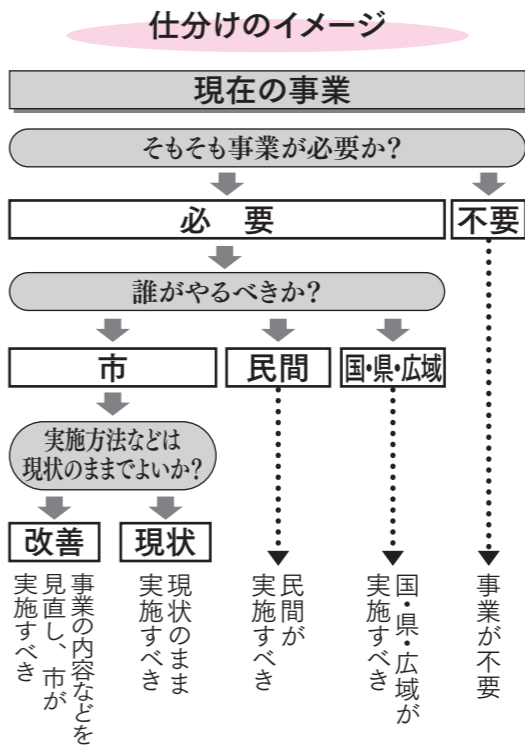
# 秋の事業仕分け

## 事業の見直し始まる

23年度予算へ

11月7日、深谷公民館の大会議室を第1会場、体育室を第2会場として、秋の事業仕分けが実施されました。市民仕分け人6人に外部からコーディネーター2人、仕分け人4人を加えた12人が2班に分かれ、20事業の仕分けを行いました。今月は、秋の事業仕分けについて特集します。

4月の事業仕分けは、仕分け人を市職員から募集したもので、試行的に市役所内部の取り組みとして実施し、その結果は、平成22年度6月補正予算などに活用されました。今回実施した事業仕分けは、市民と外部の仕分け人が市民の目線で客観的に行なったものです。この結果は、平成23年度予算をはじめ、今後の予算編成に活用されます。ここでは、2つの事業を取り上げ、仕分けの様子などをレポートします。



### 事業名 住環境ユニバーサルデザイン促進事業 ―不要（廃止）と判定―

この事業の仕分け結果は、仕分け人5人全員が、不要（廃止）としました。しかし、5人の仕分け人とも、ユニバーサルデザイン化の考えを否定したものではありませ

んでした。住環境ユニバーサルデザイン促進事業は、平成13年度に旧深谷市で開始されました。その当時は、交通バリアフリー法が施行され、駅前広場などをバリアフリー化する施策が、全国的に推進され始めた時期でした。

サルデザインを考えを市民に広く周知させようとするものでした。18年の市町合併を機に中止されましたが、市民からの要望により19年度から内容を見直した上、再開されました。なお、事業費は、22年度予算で、約3千万円です。仕分け人が、問題としたのは、事業の目標と個人に対する助成金交付の目的でした。具体的には、「ユニバーサ

ルデザインが周知できたと判断する数値目標がはっきりしない」、「トイレを和式から洋式に改修することや、ドアノブからレバーハンドルへ交換することは、考えの周知というより必要性からの改修ではないか」といった指摘があげられました。つまり、ユニバーサルデザイン化を推進する方法自体について、見直す必要があるとしたのです。

### 事業名 コンピュータ教材整備事業 ―市実施（要改善）と判定―

その中で、本事業は、ユニバーサルデザインに基づく住宅改修工事にかかる費用の一部を助成することで、ユニバー

この事業は、市内の小・中学校29校の普通教室などにパソコンを配置するもので、現在の「5人に1台」から「3・

6人」に1台へ拡充して整備するということです。事業費の9割近くをパソコンのリース料が占め、平成22年度は、

約2億円の予算が充てられています。現在は、小・中学校29校にパソコン約2,500台が整備されていますが、児童・生徒数が約12,500人のため「5人に1台」の状況です。「3・6人に1台」とするには、あと約1,000台が必要で、これを平成24年度までに整備する計画です。質疑の中では、現状と実施後の教育効果の違いや、市が目指すIT教育の目標、市のIT教育の特色や優位性などについて質問が出されました。

市では、「国のIT新改革戦略にのっとり事業を進めていること」や「3〜4人のグループで1台を使えるようになり、今より少人数での調べ学習ができるようになること」などを説明しました。質疑の結果、仕分け人の意見は不要1人、市実施（要改善）3人、市実施（現行・拡充）1人と分かれたが、多数決により、判定は市実施（要改善）となりました。市実施（要改善）とした仕分け人からは、「コンピュータ教材の整備は手段に過ぎない。情報活用能力を向上させ、子どもたちをどう育てるか。その理想によっては、パソコンが1人1台必要になることも考えられる。パソコンの必要台数や整備方法は、IT教育の目標によって変わってくるはず。」と意見が述べられました。

### 市民仕分け人へインタビュー



瓜生 三治 さん

事業仕分けをすることで市政がオープンになり、また、事業の担当者にとっては、事業をより深く理解でき、ステップアップになったと思います。市のビジョンの上に事業があると思うので、そのビジョンがより明確に示せれば、仕分けももっとやり易く感じました。



斉藤 紀美子 さん

好奇心から仕分け人に応募したのですが、仕分け人としての責任の重さを感じ勉強になりました。事業によっては、難しいものもありましたが、自分の考えている意見をしっかりと伝えました。慎重に評価したことを受け止めて、税金を市民のために使っていただきたいと思います。

また、不要（廃止）とした仕分け人は、「学校でのIT教育力では、完全に韓国、インド、中国などの国に負けているのが、今の日本の現状である。他市に追随していればよいという安全策よりも、例えば、コンピュータデザインで世界で通じるようにするくらい一生懸命やる。先生も子どもも本気で頑張る。そういう姿こそ意味がある。」とコメントしました。

※事業仕分け結果一覧

会場	事業名	事業内容	仕分け結果	講評・コメントなど	
第1会場 (深谷公民館大会議室)	住環境ユニバーサルデザイン促進事業	ユニバーサルデザインに基づく住宅改修工事にかかる費用の一部を助成する	不要(廃止)	2・3ページ参照	
	生活排水対策事業	合併処理浄化槽を設置するか、合併処理浄化槽を適正に維持管理したかなどに補助金を交付する	設置補助	市実施(要改善)	廃止は無理だが、大幅に削減して進めていくべき
			維持管理補助	市実施(要改善)	公共下水道などの負担額を見ながら金額を決めるべき
	下水道事業会計繰出金	下水道事業経営維持のために、下水道事業会計に一般会計から繰り出しを行う	市実施(要改善)	下水道事業をどこまでやるのか、最終形を確認しないまま繰り出しを続けるのは不健全である	
	道路新設改良事業	要望などにに基づき、狭あい道路や未舗装、未改良区間の整備を行う	市実施(要改善)	事業決定プロセスが見えにくい。内容を市民に公開すべき。対象地域の住民も一部負担すべき	
	産業祭補助事業	産業祭の実行委員会に対して事業費を補助する	市実施(要改善)	市の産業の発展に産業祭がどのくらい貢献できているのか不明。自主財源を確保する努力が必要	
	スポーツ・レクリエーション団体活動支援事業	体育協会、レクリエーション協会およびスポーツ少年団の3団体に市民大会・教室の開催およびその他活動に補助金を交付する	市実施(要改善)	3団体に限っての補助で、事業内容を見直し公平感を与えるべき	
	おむつサービス事業	介護保険で要介護4または5に認定されているかた、重度心身障害児・者で常時失禁状態にあるかたにおむつを月1回配達する	市実施(要改善)	多くのおむつが選べる手厚いサービスとなっているが、コスト削減に取り組むべき	
	がん検診事業	がんの早期発見・早期治療を促進するため、各種がん検診を実施する	国・県・広域	効果の把握が市町村単位では難しいことを考えた場合、国・県・広域など本来の実施主体の検討をすべき	
	奨学資金支給事業	進学の意志と能力を有しながら、経済的な理由により修学が困難な市民に高等学校などへの学資金を給与する	不要(廃止)	高校授業料無償化に伴い役割を果たしたので廃止すべき	
	青少年健全育成環境づくり事業(青少年健全育成市民大会経費含む)	市子どもサポート市民会議および市青少年相談員協議会、市内各地域の県青少年育成推進員に活動費を補助する。青少年健全育成深谷市民大会を開催する	市実施(要改善)	事業内容が多く、似た組織の見直し、イベント、大会などの整理など、全体を見て再構築をすべき	
	ガーデンシティ推進事業	花フェスタ、ガーデニング教室、花はなプランの推進、市民ガーデニングボランティアの活動支援などを実施する	市実施(要改善)	目標や期限を定め、効果測定を行うべき。花フェスタについては、収支のバランスの意識を	
	第2会場 (深谷公民館体育室)	自治会活動振興事業	自治会長に報償費を交付する。自治会館建設や改修、掲示板設置、火の見やぐらの解体撤去などに補助する	報償費	不要(廃止)
補助金			市実施(要改善)	危険な火の見やぐらは、公共で撤去すべき。自治会館改修以外は不要	
運動団体活動事業費補助金		同和問題の早期解決を目指す自主的運動団体が行う教育・啓発事業や調査研究事業などに補助する	不要(廃止)	事業による効果が把握されていない。補助金では解決につながらない。市民の意識改革につながる事業へ	
ひとり親家庭等医療費支給事業		母子、父子家庭の児童およびそれぞれの母または父もしくはその養育者に医療費の一部を助成する	市実施(要改善)	他の支援策とのからみも含め、よりセーフティネットに近い形に限定すべき	
障害者行動範囲拡大事業		障害のあるかたにタクシー券の交付、自動車燃料費の助成、車いすのまま利用できる乗用車による搬送サービスなどを行う	市実施(要改善)	利用者データ、社会参加への成果などを把握すべき。それを基に制度そのものを見直してはどうか	
学童保育室運営事業(公立)		小学校児童の放課後の健全育成のため公立学童保育室を運営する	市実施(要改善)	臨時職員の待遇を検討したうえで、民間導入を図っては。教員のOBなどの知識と経験の活用を考えては	
コンピュータ教材整備事業		コンピュータを普通教室などに計画的に整備する	市実施(要改善)	3ページ参照	
中央土地区画整理推進事業		中央土地区画整理事業の推進のため、先行買収した土地の買い戻しを行い、事業用地として活用する	不要(廃止)	都市計画決定の変更も含め、見直す勇気を持ってほしい。後世への負担もあり英断を望む	
駐輪場管理運営事業		駅周辺14か所の駐輪場を維持管理する	市実施(要改善)	駅近隣は、有料化の検討を。委託料の再検討を。放置自転車対策を含めて一括して管理委託しては	
循環型農業推進事業		家畜排せつ物の処理を行い、有機資源を利用するとともに、周辺地域の環境汚染防止を図る	市実施(要改善)	施設利用料の見直しや、個別農家の処理設備補助への切り替えも検討すべき。農家も負担金を出すべき	

※事業内容、評価・コメントなどの詳細は、市ホームページをご覧ください。

# 外部仕分け人&コーディネーターに聴く

## 真つ向勝負「河野さん談」



第1会場仕分け人  
衆議院議員 河野 太郎さん

今回の事業は、市の根幹をなす骨太の事業が多く、真つ向勝負にきたなと、市の気合が十分伝わってくる事業選定だったと感じました。事業仕分けをした感想ですが、補助金が潤沢に出ていると思います。

今までやってきたことをそのまま継続しているだけで本当に効果があるのか。いつまでにどれだけの予算をかけて何を達成するのか。年度が終わったときにどれくらい達成できたかを検証できるように、事業を見直す必要があると感じました。



第1会場コーディネーター  
逗子市秘書室広報課 石井 聡さん

## 変化のきっかけ「石井さん談」

第1会場は、意見が分かれたものが多く、コーディネーター採決になった事業もありますが、どういった議論があったか、そのような結論になったのか、その過程を大切にしたいと思っています。

また、今日の仕分けは、わずか20事業だけでしたが、それだけで終わらせずに、職員の皆さんは、担当の仕事に少しでも参考にしていただけたらありがたいです。

そして、この事業仕分けを行ったことで、今日から何か始まる、今日から何か変わるきっかけとしてほしいです。

## 目標の共有「定野さん談」



第2会場コーディネーター  
足立区総務部長 定野 司さん

市が事業仕分けを行うことは、市政に積極的に取り組む姿勢であり、行政の責任を果たしている点で素晴らしいことだと思います。また、職員のかたの真剣な態度や丁寧な説明に非常に好感を持ってました。

感想としては、目標というか、どこまでやればいいのかという視点が抜けていた気がします。市と市の職員と市民の皆さんが、目標を共有してその観点から、一つ一つの事業を点検していくこと、見直していくことが市政の発展のポイントだと思います。

## 仕分けを終えて



深谷市長 小島 進

私は、市長に就任する前から、事業仕分けの実施を第一優先に掲げ、行財政改革を訴えて参りました。市民の皆さんや外部のかたの客観的で率直な意見を市政に反映させたいからです。

現在の深谷市の財政は、県内でも良い方ですが、人口増、税収増という順風満帆な状況でもありません。

この時にこそ、仕分けの議論と結果を真摯に受け止め、将来を見据えた改善を行って参りたいのです。

## 「厳つ」結果

事業仕分けの結果を一言で言えば、厳しいと同時に

ありがたいと感じました。今回対象となった事業は、市の根幹をなすものです。仕分けでの多種多様な意見を聴き、税の使い方が検証できたと思います。

今回の厳しい仕分け結果を鑑み、身を引き締めていかなければなりません。市民の皆さんが、安全に安心して、そして夢を持って暮らせるように全力で努めて参る所存です。

